

パラグアイで健診する副団長の
有田健一医師㊟ (広島県提供)



22.10.30

南米被爆者へ 新たな支援を 広島県健診団が訴え

南米5カ国の被爆者の健康診断のため、広島県が派遣した医師団が29日、県庁で帰国会見をした。高齢の被爆者が無料の渡日治療を断念し、現地で高額な治療費を負担していると指摘。新たな支援策の必要性を訴えた。

1の8都市を2班に分か

れて巡回。アマゾン川河口のブラジル・ベレンを初めて訪問した。期間中、

治療を断念した。現地の

病院で治療すると、50

0万〜600万円掛か

る。

94〜64歳の計94人を診

察。うち3人が、4月か

ら在外申請が可能になっ

た原爆症認定の手続きを

近く始めるといふ。

近

地

の医療費を日本政府が全

額負担するなど新たな支

援策を考える時期だ」と

強調した。(藤村潤平)

8〜25日までブラジ

ル、ボリビア、パラグア

イ、アルゼンチン、ペル

ンが見つかったサンパウ

ロの男性(73)は、心身の

負担が大きいとして渡日

(藤村潤平)